

# 大地震が起こる前に



地震により倒壊した家屋 (写真は2007年に発生した新潟県中越沖地震のもの)

阪神・淡路大震災から18年、そして東日本大震災から2年が過ぎようとしています。被災地では今なお、復旧・復興が進められています。その道筋は決して容易なものではありません。

近い将来、高い確率で南海・東南海地震の発生が予想されており、いつ私たちが襲うとも限りません。

そのような時、市民の皆さんはどのように行動すべきなのでしょう。また、行政の果たすべき役割とは…。

ここで、今一度、あなたご自身の防災、家族の防災、地域の防災について考えていただき、日頃から災害に備えていたいただきたいと思えます。

▼問合せ 市民安全課  
(☎337・3151)

## ……自分の身は自分で守る

### 住まいの点検

▼家屋やブロック塀などの点検・補強  
ブロック塀の倒壊や瓦の落下などの危険がないか点検し、危険がある場合は補強などを行います。



地震で倒壊したブロック塀 (新潟県中越沖地震)

### ▼家具などの転倒防止

地震などで、多くの人が負傷する大きな原因は家具の転倒や落下です。家具やテレビなどの固定はもろること、配置を変えるだけでも軽減できます。また、ガラスの飛散防止フィルムを張ることで避難時、負傷する恐れが軽減できます。

### チェック

- 家具の固定は
- 家具の配置は
- テレビ・食器棚などは

### 非常備蓄品・非常持ち出し品の準備

市では、食料・水など一定の備蓄をしていますが、避難所などに物資が届くまで、時間を要する場合があります。それに備え、非常備蓄品や非常持ち出し品の準備をしましょう。

▼食料・水などは最低一人3日分を用意。また、年に一度は賞味期限などの確認を。

▼非常持ち出し袋はリュックなど背負えるものにし、両手が使えようにする。家族構成に合わせ、非常食など最低限必要なものを準備し、いつでも持ち出せる場所に備える。



備蓄物資

### チェック

- 例えば
- 食料品
  - 飲料水
  - 懐中電灯
  - 応急医薬品
  - 携帯ラジオ
  - 貴重品
  - 生理用品
  - 衣類・下着
  - マスク・軍手
  - タオル
- ※あかちゃん、お年寄りなどのいる家庭では、それぞれ必要なものを用意しておきましょう。

### 家族みんなで話し合い

いざというときのために、普段から話し合っておきましょう。普段から話し合うことでより安全に避難することができ、家族などの安全確認がスムーズに行えます。

### ▼特に決めておきたいこと

- ▼家の中でどこが一番安全なのか？
  - ▼脱出ルート
  - ▼避難場所とそこまでのルート
- ※休日などを利用し、避難経路の確認を(より安全に避難できるよう倒壊する恐れのある建物のそばは通ら

ないなど)。  
▼非常時に持ち出すもの、およびその場所  
▼災害時の緊急連絡先



### チェック

- 自宅の安全場所確認
- 避難場所の確認
- 脱出ルートの確認
- 避難経路の確認
- 非常持ち出し袋の場所

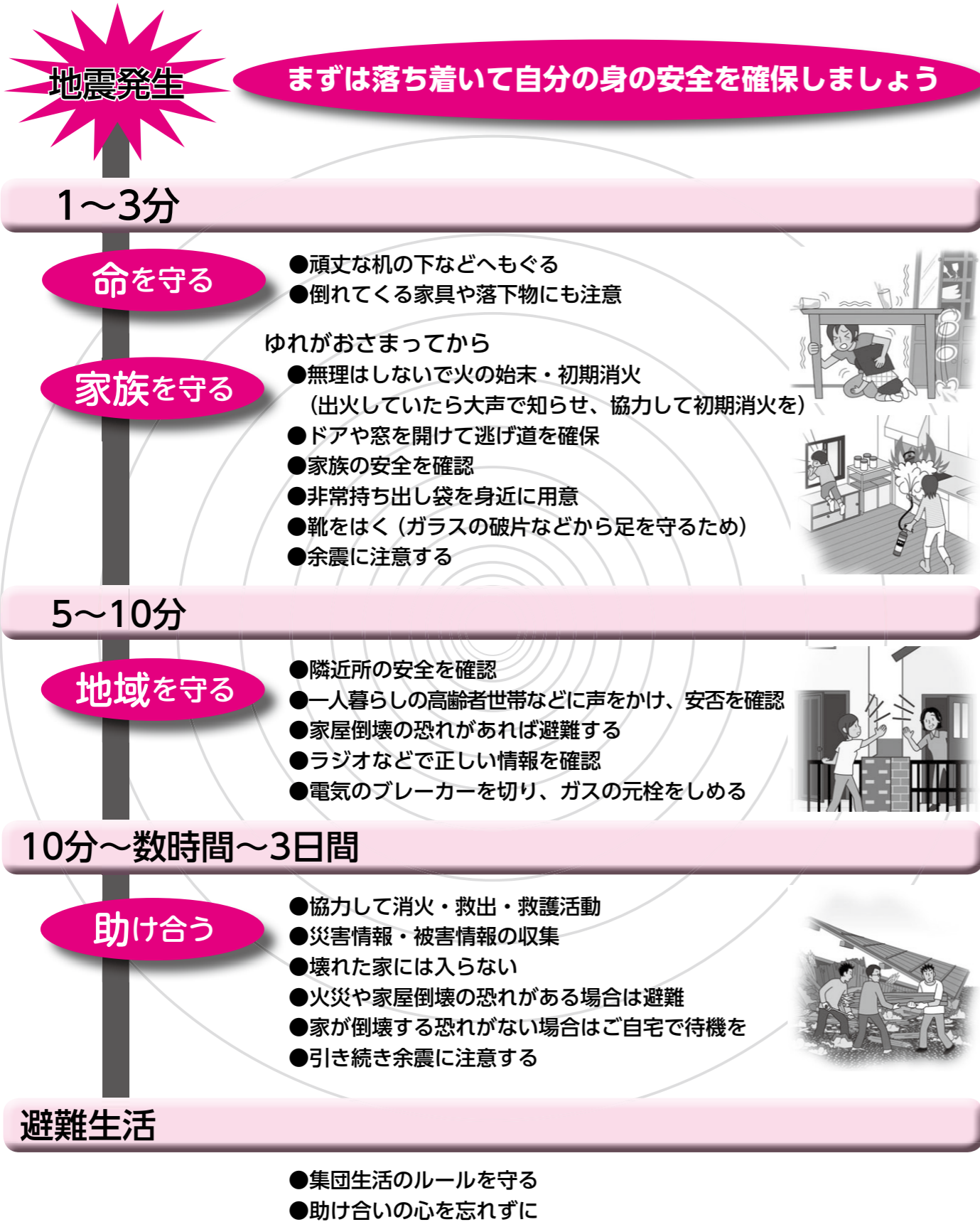


※阪神・淡路大震災では、次のような物が役立つりました。参考にしてください。

- ◇カセットコンロ
- ◇ブルーシート
- ◇使い捨てカイロ
- ◇携帯トイレ
- ◇水のいらぬシャンプー など



# 大地震が起こったら ～地震から身を守るために～



イラスト提供：消防庁

## 地域の防災力を高める

：自分たちのまちは自分たちで守る

大災害が発生したら、道路事情の悪化やライフラインの途絶などにより、救助を求めずともすぐに来てもらえない場合が考えられます。そんなとき、隣近所の住民同士で協力し、自分たちのまちは自分たちで守る」地域の防災力を高めておく必要があります。

阪神淡路大震災では、地域住民の自主的な救助・救護活動が被害の拡大を防ぎました。

松原市でも現在、18の自



出初式でパレードする自主防災組織の皆さん

## ●防災メモ …市内の自主防災組織

- 更池特設消化班
- 堀町会連合会自衛消防隊
- 芝連合自衛消防隊
- 油上清交会自衛消防隊
- 一津屋町防災会
- 一津屋荘園自治振興会自衛消防隊
- 上の池連合町会防災会
- 池内自治連合会自主防災組織
- 立部町会自主防災会
- 三宅町会連合会防災会
- 岡町会自主防災会
- 丹南町会自主防災会
- 河合地区連合自主防災会
- 新堂北之町会自主防災会
- 西大塚町会自主防災会
- 府宮松原立部住宅自治会防災部
- TATUNANサポート
- 阿保第3町会防災委員会

自主防災の取り組みでは、特に高齢者や体の不自由な人など、災害時に支援を必要とする人の把握をしておく必要があります。しかし、最近では町会などに加入しない世帯が増えるなど、近所づきあいが少なくなっています。

もしものとき、頼りになるのは地域の人のつながりではないでしょうか。まずご近所とのコミュニケーションを持つことが大切です。

## 地域の絆で減災を

自主防災組織が結成されており、各地区で防災訓練をはじめ活発な防災活動が行われています。皆さんも地域の自主防災組織の活動に積極的に参加しましょう。

## 松原市の防災対策

市では、地震などの災害による被害から市民の皆さんの生命と財産を守るため、防災対策に取り組んでいます。

### ●防災行政無線

災害時や災害発生の恐れがある場合に、屋外拡声器から災害情報などをいち早く放送するもので、市内51カ所に設置しています。

### ●地域防災無線

主に防災関係機関相互の連絡などに使用する無線です。災害時、電話、携帯電話などの通信手段が使用できなくなったときにも、消防、警察、学校など関係機関が相互に通信するためのものです。

市役所を基地局に、市内公共施設など70局で構成されています。

### ●全国瞬時警報システム (J-ALERT)

対処に時間的余裕のない緊急情報を、国が人工衛星を用いて市の防災行政無線を自動的に起動し、屋外拡声器でサイレンや音声情報を伝達するもので、次の情報が放送されます。①緊急地震速報 (震度5弱以上) ②武力攻撃情報 (ミサイル発射やテロ攻撃など)

### ●災害資機材の配備

大規模災害が発生したときに、市民の皆さん自らが行う防災活動や救助活動に使用していただくため、市内すべての小・中学校 (小学校15校・中学校7校) の防災倉庫に資機材を配備しています。

### ●災害用井戸 (生活用水用) の設置

大規模災害が発生し、水道の給水が停止した場合に、避難所における飲用水以外の生活用水 (洗濯やトイレ) を確保するため、市内すべての小・中学校および阪南大学本キャンパス・南キャンパス、阪南大学高等学校に災害用井戸を設置しました。

### ●松原市災害時サポート事業所登録制度

事業所も地域の一員として、平常時から地域活動を通じて、地域との交流を深めるとともに、災害が発生した直後、できる範囲内で防災活動に協力し、被害の軽減や地域生活の早期復旧のため、貢献していただく制度です。

### ●松原市災害時要支援者安否確認実施制度

大規模災害の発生時に、一人で暮らす身体障害者や介護が必要な人の安否を災害対策本部が迅速に確認し、適切な支援を行う制度です。